

SCERTS 勉強会

○症例：小学6年生、A小学校 支援級在籍

○MO ニーズ：ルールを決めたら自分で気付いて自分でしてほしい。(生活スキル、宿題と準備)、先生で態度が変わる。イラつきが減ってほしい。

○日常での課題

- ・一方的に話す、問題行動が起きやすい(物を壊したり、とったりする)、性的なことへの興味が高い。
- ・学校では、問題が起こると一人の部屋へ行き、落ち着くまで待つ⇒タブレットをする。

○個別支援より(持っている力と環境の分析)

- ・体を揺らしたりして気持ちを落ち着けたり、見通しをつける、刺激を減らす等、個別の環境であれば課題へ参加できる。
- ・ゆっくりとマッサージしたりすると気持ちが落ち着く時間を作る事で少し落ち着き、相手の話に注目しやすい。
- ・イメージがつきづらい事は、実際に見て確認すると理解しやすいです。
- ・本人の好きな話題であればよく話し、時々、他者へ視線を送る事やある程度満足できると切り替えて活動へ移れることがあります。

○実際の療育場面でできること

- ・本人のことばの理解や語彙力を知る。(表現力がどれぐらいあるのか)
- ・一方的に話し出してしまう。表出が多いため、会話の決まりを伝えていく。
- ・共同注意の場を作る。
- ・怒られる経験の蓄積⇒人への不信感。本人の気持ちを引き出して、伝えた時に解決された経験を。
- ・マッサージと力を入れることのメリハリ。役割交代。
- ・力の加減(0かMaxを知る)目標値を大人と共有する。
- ・性については、正しい知識と自分の身体を知る事、大事にする事。そして他者を大事にすることへ繋がっていく。

○SCERTS 習慣優先目標（SCERTS の小項目で狙いたいところ）

子どもの社会コミュニケーションおよび情動調整の小目標	パートナーの交流型支援の小目標
JA3.1 社会的相互作用のために意図を共有する	IS1.3 コミュニケーションの有能感を高める為に子どものシグナルに適切に答える
JA3.2 共同注意のために意図を共有する	IS2.3 始発のターンと応答のターンのバランスをとる
SR1.3 経験を共有するために、話し手、聞き手の役割の中で相補性を示す	IS4.1 コミュニケーションする前に子どもの注意を確保する
SR3.3 段階的な情動を理解し、使用する	IS5.4 情動を表出したり情動の原因を理解したりするガイダンスを与える
	LS3.1 課題内のステップを明確にする援助を用いる
	LS4.3 学習環境の感覚的特性を修正する

○個別支援の目標

- ・(3～6ヶ月で目指したい生活像) 話題に対して質問に回答できることが増える。
- ・(1年後に目指したい生活像) 他者と共通の話題で話す機会が増える。

○療育内容

・話しや活動を共にする上で、共通の話題や活動に目を向け、意見を交換し合いながら話しを進めていきます。その際は、視覚的にことばを示しながら話題の共有を行っていきま
す。お互いの意図が通じた経験も積み重ねていきます。